

医療・医薬関連の既存事業を 集約して総合力を発揮

くろ だ まこと
黒田 誠

三井物産株式会社 コンシューマーサービス事業第一本部
メディカル・ヘルスケア事業部長

全社目線で、より大きな事業の確立へ

当社では2006年末から、人材を含む当社の限られた経営資源を縦横無尽に駆使し、全社最適を実現していくために5つの分野で「事業領域別戦略協議会」をスタートしました。そのうちの1分野の答申結果を受け、「メディカル・ヘルスケア」を全社注力事業領域の1つに位置付け、重点的に事業拡充・新規事業を推進することを目的として、2008年1月1日付で「メディカル・ヘルスケア事業部」を新設しました。

新組織はコンシューマーサービス事業第一本部内に設置され、過去より進めてきた全社の医療・医薬関連の既存事業（主にコンシューマーサービス事業第一本部／第二本部、および化学品第一本部の関連する各事業）を新部へ集約し、全社目線で、より大きな事業の確立を図っていきます。

新しい部は、コンシューマーサービス事業第一本部から約20名、化学品第一本部から約35名、そして4月には、全社からの人材ポートフォリオの傾斜配置で新たに20名を加え、約80名の体制で事業を進めています。



新組織は次の4分野、合計7事業室で構成されています。

- ◆予 防 分 野：ヘルスケアサービス事業室
プライマリヘルスケア事業室
- ◆製 薬 分 野：ファーマソリューション事業室
- ◆医 療 分 野：メディカルサービス事業室
メディカルネットワーク事業室
- ◆シニア分野：シニアリビング事業室
- ◆総合力発揮：事業推進室

4分野での取り組み

また、4分野での取り組みは次の点に注力していきます。

◆予防分野

「質の高いウェルネスサービスの提供」「ヘルスケアの安全性・透明性確保」「利用者の知識レベルの向上」をめざしたヘルスケア情報・施設インフラの構築およびコンテンツの提供、ならびにサプリメント・OTC (Over The Counter Drug：一般用医薬品) の製造支援・販売事業を通じた、「セルフメディケーションの質・アクセス向上」を図っていく。

◆製薬分野

国内新薬市場の空洞化、グローバル治験の流れを視野に入れ、本来必要とされるべき新薬の開発遅れ（ドラッグラグ）の改善をめざした製薬開発・^{じょうし}上市*1支援インフラの構築、および「薬剤費の適正化」を促す婦人科など、特定領域を対象とした後発医薬品事業を通じて、「人々の薬へのアクセス向上」を図っていく。

(注) *1. 上市：研究開発段階を完了した薬剤が製品として市場に出回ること

◆医療分野

医療機関に対して、サプライチェーンやアウトソースの複合支援サービスを提供すること

で、「医療行為に集中できる環境」を実現し、「効率的な医療機関経営」の支援をめざす。また、医療の有機的な連携ネットワーク構築・運営による、「医療の最適配分」「医療安全性・透明性・質の向上」「消費者視点に立ったクリニカルパス*2の確保」の実現をめざしていく。

(注) *2. 治療や診断行為の流れを示した計画表

◆シニア分野

団塊の世代が高齢者世代に参入する5～10年後の本格的な超高齢社会の到来に向け、当社ならではの安心で良好なシニア向け住環境をつくり出したいと考えている。質の高いサービス人材の確保・育成により、差別化されたサービスを提供するシニア向け住宅運営事業を推進し、それを核とした幅広いシニア向けサービス事業を展開することで、シニア向け総合サービス企業としての成長をめざす。

ヘルスケア産業における課題に挑戦

ヘルスケア産業は近年、急速に進む人口構造の高齢化、および人々のQOL (Quality of Life：生活の質) 意識の向上、バイオテクノロジーや高度医療の進歩により大きな注目を浴び

図1 4分野での取り組み

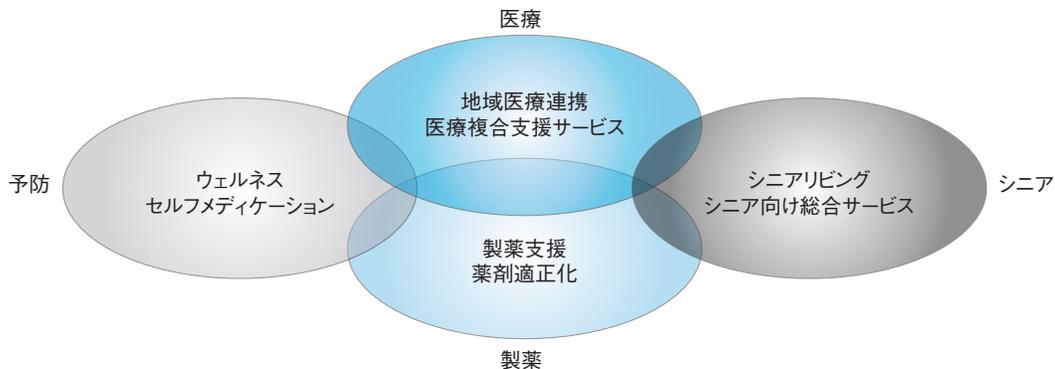
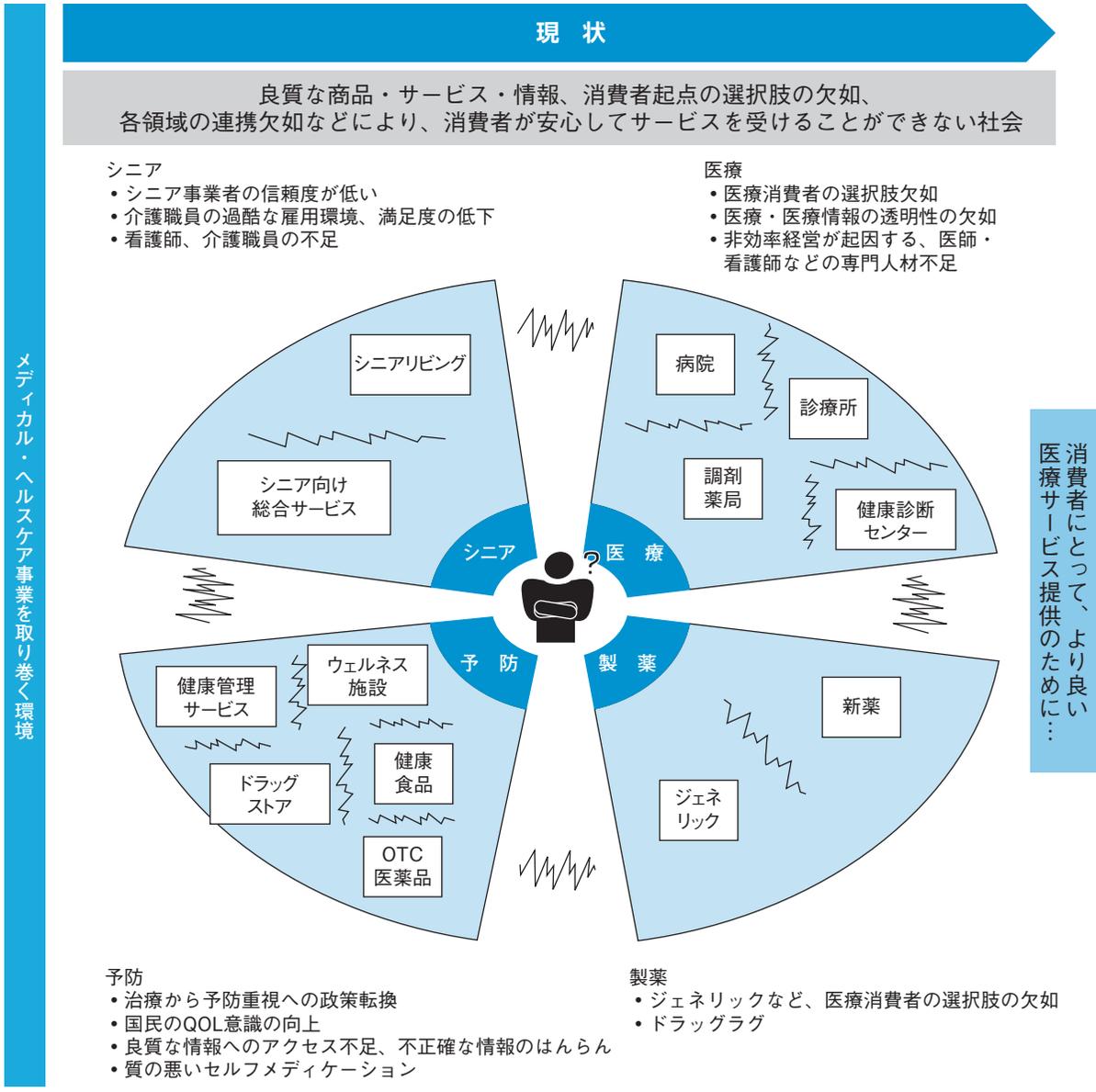


図2 メディカル・ヘルスケア事業部のあり姿



ています。一方、多くの国では、ヘルスケアのコストが急騰しているにもかかわらず、その質は低く、一貫性に欠け、選択肢も少ないため、消費者が安心してサービスを受けられないことが、大きな問題になっています。また、これに加えて、加速するヘルスケアのグローバル化、ますます変化する人口構造および消費者意識の

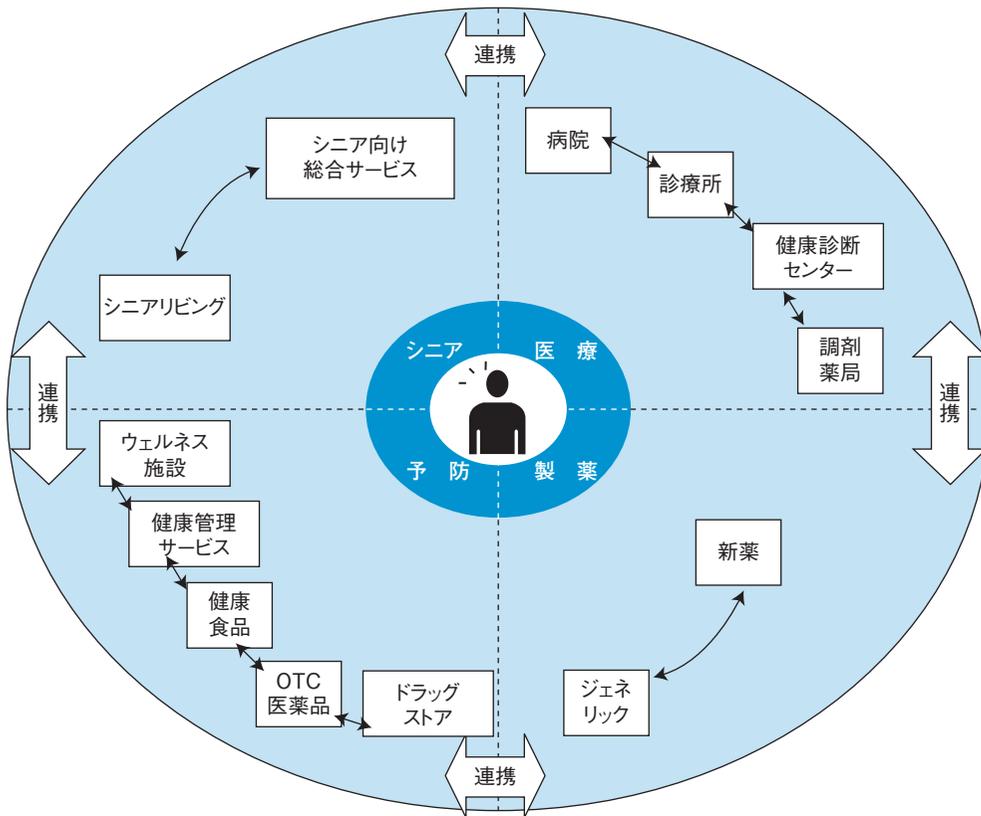
向上、コストのかかる最新技術などに対応していくことが、ヘルスケア産業の重要な課題になってきています。

メディカル・ヘルスケア事業部では、こうした問題を見据え、ヘルスケア産業における「質の向上」「安全性・透明性の確保」「効率化」という課題に挑戦し、付加価値の高いサービスと

あり姿 (5~10年後)

三井物産メディカル・ヘルスケア事業部のミッション

ヘルスケア業界における「質の向上」「安全性・透明性の確保」「効率化」という課題に挑戦し、付加価値の高いサービスと質の高い“場”を提供することで、人々のQOL向上をめざす



消費者が自らの意思で選び、最適な組み合わせで活用、高い品質のサービスを安心して受けることができる社会

質の高い“場”を提供することで、質が高く、人々が安心できるヘルスケアを提供し、人々のQOL向上をめざしていきたくて考えています。現在は事業領域を4分野・7事業室に分けてい

ますが、各領域・ビジネスユニットで連携を取り、事業領域の継続的見直しを行っていきながら、よりダイナミックな事業展開をしていきたくて考えています。

